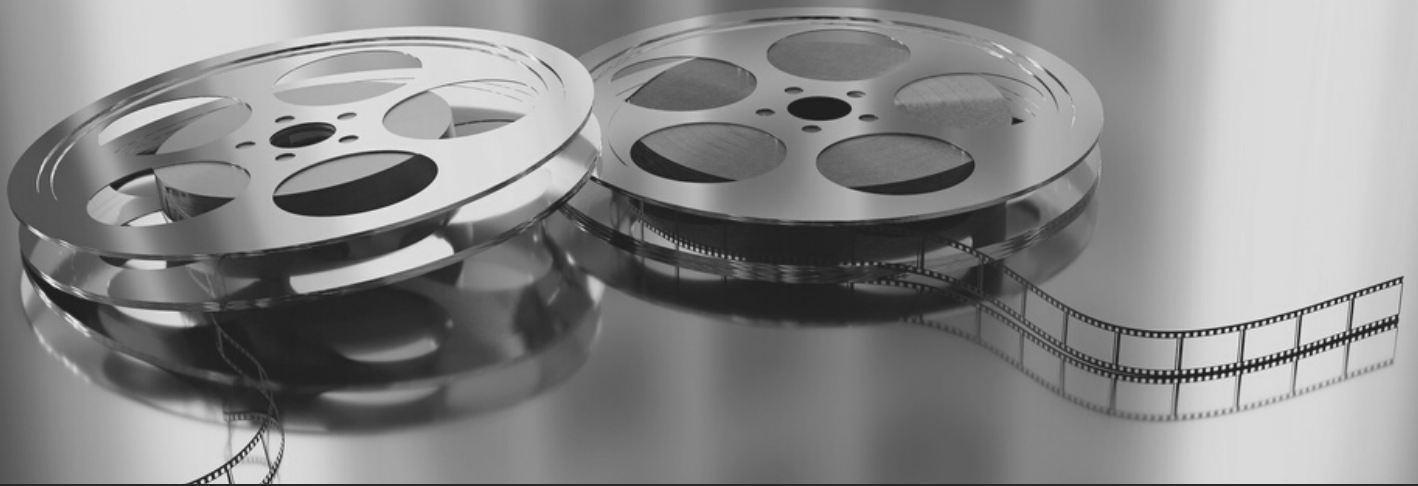


シネマ通信

第6号（2022年11月27日）



ザリガニの鳴くところ

第6回鑑賞作品

監督：オリヴィア・ニューマン
原作：ディーリア・オーエンズ
プロデュース：リース・ウィザースプーン
オリジナルソング：テイラー・スウィフト
出演：カイア（デージー・エドガー＝ジョーンズ）
 テイト（テイラー・ジョン・スミス）
 チェイス（ハリス・ディキンソン）

前途有望な青年が
湿地帯で変死
容疑は、そこに暮らす
孤独な少女にかかる

1969年、米国南部ノースカロライナ州の湿地帯で、地元の裕福な家に育ち将来を嘱望された青年が、変死体で発見された。容疑をかけられたのは、“ザリガニが鳴く”といわれる沼地で一人で暮らす少女カイアだった。

彼女は6歳の時に両親に捨てられ、学校にも通わず、花、草木、魚、鳥たちに囲まれ自然から生きる術を学び、静かな日々を営んできたのだ。そんなカイアを、湿地帯の生態系に興味を抱くテイトという少年が尋ねてくるようになり、ふたりは恋に落ちるが…。



About Them

「ザリガニの鳴くところ」の原作者ディーリア・オーエンズは、夫（現在は離婚）と共にアフリカ生活を綴ったドキュメンタリー3部作で知られる動物学者。初のフィクションとなる本作は全世界1500万部突破の大ベストセラーとなり、日本でも2021年度の本屋大賞翻訳小説部門第1位を獲得しました。

この本の面白さの虜になった一人が、「キューティ・ブロンド」で一躍世界的スターとなったリース・ウィザースプーン。自身の制作会社を通じ映像化権を獲得し、自らプロデュースを手がけました。監督は、ロバート・レッドフォード所縁のサンダンス脚本・監督ラボの卒業生：オリヴィア・ニューマン。『この本を読んだとき映像作家として一刻も早く掘り下げてみたいと思った』と語っています。そして、オリジナルソングを作曲したのが、グラミー賞11回受賞のシンガーソングライター：テイラー・スウィフト。この素晴らしい物語に合う曲を作りたい！と、自ら懇請し「キャロライナ」を書き下ろしました。

まさに本作は、原作に惚れ込んだ4人の仕事盛りの女性の四重奏。個々の才気が共鳴する圧倒的な熱量で、米国南部を舞台に、濃密な映像叙事詩を奏でます。



About Something

コロナ禍で3年間の我慢の末、この秋、ついにギリシャ旅行を敢行?!しました。

染めたような碧い海と、白い家々。そこにはまさに、写真の世界が広がっていました。しかし内陸部は、まったく異なる様相。紀元前と変わらないような原野が、延々と続きます。国土は日本の0.35倍、人口は0.08倍ということですから、耕作も、工場誘致もままならないのでしょう。

今回の旅行で一番残念だったのは、クレタ島で、往年の名画「その男ゾルバ」のロケ地を訪れる時間が無かったこと。そのヒロイン：イレーネ・パパスが、私がギリシャに降り立った丁度1ヶ月前に、96歳で亡くなったことを帰国後に知り、感慨深いものがありました。

アテネの一番の魅力は、街のほとんどの場所からアクロポリスが望めること。澄み切った青空に凜として立つパルテノン神殿は、人々に揺るぎない誇りを与えてくれることでしょう。しかし、視線を水平に戻すと、目に入ってくるのはごちゃごちゃとした街並み。ファッションも、店のインテリアも、並べられた商品も、残念ながらイマイチ垢抜けない。ルネッサンスを誘引した、圧倒的なあの美意識は何処に行ったのでしょうか。

他民族が複雑に興亡する長い被支配の時代。政治的に征服されることは、独自の文化が浸食されることだと、しみじみ感じました。

そんな中でも、驚きが1つ。現代でもギリシャの人々は、3,000年前の彫像に記された文字や碑文を読むことができ、大体の意味も分かるそうです。ヨーロッパ文明の礎を築いた古代ギリシャの輝きが歴史に埋もれていくそのそばで、なぜ、言語だけはその姿をあまり変えずに生き続けることができたのか？ 同行の友人との間に、あまりに難しく興味深い共通の疑問が生まれました。